

# 竹中平蔵 こどもプロジェクト

## 大妻多摩中学校で経済学の特別授業 (2008年1月10日)



生徒たちも熱心に講義に参加

### (株)外為どっとコムがサポート

なお、「竹中平蔵こどもプロジェクト」では、今後も日本全国で特別授業を実施する予定で、授業開催に興味のある学校関係者、自治体関係者の方々は、(株)外為どっとコム「竹中平蔵こどもプロジェクト事務局」TEL03-5733-3061 FAX03-5733-3063 (受付時間は午前9時～午後7時まで) Eメールの場合は plan@gaitame.com までお問い合わせを。

竹中氏が「少子化で子どもたちの人数が減るなか、あなたが校長先生ならどうやって学校を経営しますか」という問題を子どもたちに出すと、ほとりの生徒からは、「授業料を安くし、生徒数を増やすことで、収入を維持する」という意見が出る一方で、「授業料を安くしたうえに、生徒も集まらなければ、さらに収入は減るので、経営が難しくなるのではないか」という意見が別の生徒から出されるなど、活発な議論が繰り広げられた。

竹中氏はこの議論を引き取り、「1980年代のレーガン政権で税率を引き下げたときの論争と同じ。当時米国では、税率を下げたら、税収が

### 経済に絶対的な正解はない

中学校で講義する  
竹中平蔵先生



減るといふ人もいれば、税率を下げれば、みんながいっぱい働いて所得が増えるので税収は増えるという人もいた。結局、レーガン政権は税率を下げた税収を伸ばした。一番重要なことは二人とも正解だということ。経済の問題には絶対的な正解はない」と解説し、「学校で習う受験勉強には必ず正解があるが、経済の勉強には正解がない。だから考えることが大事なのだ」と訴えた。そして、「先生も生徒も関係なく、対等な立場で経済の問題について議論すべきだ」と強調した。

子どもたちにお金の大切さや経済の重要性について知ってもらうことを目的に、元総務大臣で慶應義塾大学教授の竹中平蔵氏が1月10日、東京・多摩にある大妻多摩中学校(安川瑛子校長)を訪れ、1年2組の生徒42人に特別授業を行った。

これは日頃から竹中氏がその必要性を説いていた「経済学の社会教育」を実践するために、去年夏にスタートした「竹中平蔵こどもプロジェクト」の活動の一環として実施されたもので、去年7月に沖縄の名護小学校で行われた特別授業に続いて2回目。同プロジェクトは独立系FX(外国為替保証金取引)事業会社最大の株式会社外為どっとコム(代表取締役社長:大畑敏久)が、社会貢献を目的にサポートしている。